

# GS News Letter Vol.11

Center for Global Security  
National Defense Academy  
March 1, 2022

発行日：2022年3月1日（第11号）

## 活動報告

### 「ジブチ共和国国防省大臣顧問とのコロキウム」

執筆者

浦上 法久  
うらかみ のりひさ

防衛学教育学群 准教授

2021年7月27日（火）、ジブチ共和国国防省より国防大臣顧問であるイブラヒム・ファラー（Ibrahim Farah）氏をお招きし、倉田センター長の司会のもと、防衛学教育学群および総合安全保障研究科からの参加者を得てコロキウムを実施しました。

ファラー氏からは「ソマリアにおけるAMISOMの活動およびジブチ情勢」について講義していただきました。ソマリアで行われているアフリカ連合ソマリア・ミッション（AMISOM）によるイスラム過激組織アルシャバブ掃討作戦の現状、ジブチのAMISOMにおける活動や課題や展望などです。ソマリアと国境を接するジブチは、民族・言語・文化に共通性がある一方で、テロや部族間紛争など安全保障上の問題解決の困難性が指摘されました。また、ファラー氏は、日本とジブチとの間で、PKOや能力構築支援などの分野で安全保障協力が促進されることに強い期待を示しました。参加者からの質疑を交え、活発なディスカッションが行われました。



写真：「ジブチ共和国国防省大臣顧問とのコロキウム」（2021年7月・防衛大学校）

## 活動報告

### 「ジェイソン・ハイランド氏によるコロキウム」

執筆者

倉田 秀也

くらた ひでや

グローバルセキュリティセンター長／国際関係学科 教授

2021年10月13日（水）、ジェイソン・ハイランド（Jason P. Hyland）氏によるコロキウムが開催されました。ハイランド氏は現在、オルブライト・ストーンブリッジ・グループのシニア・アドバイザーの職責にあります。2014年から駐日米国首席公使として赴任し、キャロライン・ケネディ大使が離任した後、ハガディ大使が着任するまでの間、臨時代理大使を務めました。この間の経験については、最近刊行された『外交官の使命—元駐日アメリカ代理大使回顧録』（角川書店、2020）にも纏められています。ハイランド氏は倉田センター長からグローバルセキュリティ・センターについての概況説明を受けた後、神谷万丈本校人文社会科学群国際関係学科教授の司会の下、最近の日米関係を概観した後、久保文明学校長、国際関係学科教官、総合安全保障研究科学生との意見交換を行いました。

テーマは日米関係にとどまらず、日本の防衛政策その他多岐に及び、活発な議論が展開されました。



写真：「ジェイソン・ハイランド氏によるコロキウム」（2021年10月・防衛大学校）

## 活動報告

### 「コロキウム 小型衛星における防衛利用」

執筆者

田中 宏明

たなか ひろあき

航空宇宙工学科 教授



写真：「コロキウム 小型衛星における防衛利用」（2021年11月・防衛大学校）

2021年11月1日（月）、金岡充晃氏（シー・エス・ピー・ジャパン株式会社 シニアアナリスト）をお招きし、宇宙安全保障に関するコロキウムを開催しました。防衛大学校、防衛装備庁、航空自衛隊等から45名の方の参加がありました。金岡氏から「小型衛星における防衛利用」の題目でご講演いただき、Cubesatのミッション事例やCubesat向けセンサー一覧など世界的な小型衛星に関する最近の傾向についてご紹介いただいたあと、特に光学衛星、SAR衛星、SIGINT衛星の安全保障用途への利用状況、将来的な可能性についてご教示いただきました。さらに、米国土官学校での小型衛星開発の現状についても紹介いただきました。宇宙安全保障に関する内容ということで参加者の関心も高く、多くの質問や活発な議論が行われました。本講演会終了後も講師を囲み約1時間程度議論が続けられ、大きな成果を得られた会となりました。

## 「国際平和協力活動セミナーへの支援」

執筆者

吉崎 知典

よしざき ともりのり

防衛研究所 特別研究官

2021年11月24日（水）、陸上総隊国際活動教育隊（駒門）が主催する国際平和協力活動セミナー（International Peace Cooperation Activities Seminar）にグローバルセキュリティセンター共同研究員が参加し、平和構築と包括的アプローチについて英語にて討議しました。

第1部では、平和構築支援に向けた研修を永年担当してきた東京外国語大学の篠田英朗教授、および、早稲田大学の上杉勇司教授がアフガニスタンでの経験につき発表し、GSCの吉崎知典共同研究員が全般の進行

を担当しました。またアフガニスタンから共同通信の安井浩美さんもオンラインで参加し、自衛隊機によるカブール退避の経験とその後の展開についてコメントしました。

第2部では、国際平和協力活動に関係する研究機関、大学、政府機関（内閣府PKO事務局、外務省、防衛省・自衛隊、JICA他）、国際機関、NGOからの約30名の参加者とともにオンライン分科会方式による討議を行い、今後の活動の資としました。

# 活動報告

## 「コロキウム 日英同盟復活とAUKUS創設の背景：インド太平洋時代の幕開け」

執筆者

等松 春夫

とうまつ はるお

企画・発信部門長／国際関係学科 教授

2021年11月25日（木）に、秋元千明（英国王立防衛安全保障研究所 日本特別代表）をお招きし、企画発信部門長・等松春夫の司会により、アジア・太平洋地域の安全保障体制に関するコロキウムを開催しました。司会が担当する本科1年生「近現代史」の枠を使用したため約150名の本科生が聴講しました。また教官、安全保障研究科の学生など30名以上が聴講したため、コロキウムとしては大型のものとなりました。秋元氏の講演は近年における中国の台頭による周辺諸国との紛争の増大、それに対するオーストラリア、英国、米国の対応（AUKUSの創設）という新事態を踏まえ、英国と日本の新たな安全保障上の協力関係構築の提案にまで及ぶ広範かつ多角的な内容でした。講演終了後は本科生から多くの質問があり、秋元氏はわかりやすく答えてくださいました。

講演会終了後は休憩をはさんで場所を移動し、総合

安全保障研究科学生と教官が講師を囲んで1時間半にわたり専門性の高い質疑応答と討論を行いました。教官・研究科学生にとっても、本科生にとっても最新の知見を得るきわめて充実した時間となりました。



写真：「コロキウム 日英同盟復活とAUKUS創設の背景」（2021年11月・防衛大学校）

## 活動報告

### 「コロキウム 宇宙の軍事利用の潮流」

執筆者

佐久間 大

さくま ゆたか

情報工学科 准教授

2021年12月10日（金）、福島康仁氏（防衛研究所 政策研究部 グローバル安全保障研究室 主任研究官）をお招きし、情報工学科 鶴飼孝盛講師の司会により、宇宙の軍事利用に関するコロキウムを開催しました。当日は、20名の参加がありました。福島氏からは「宇宙の軍事利用の潮流～スペース・パワー論からみた過去・現在・未来～」の題目でご講演いただき、宇宙の軍事利用の潮流における、その目的および形態について、4つの学派に分類し解説していただきました。さらに、その時々における各国の動向および使用された軍事技術についても併せて紹介していただきました。ご講演内容は、宇宙安全保障に直接的に関係するものであることから、参加者の関心が非常に高いものでした。講演会終了後も講師を囲みおよそ1時間程度、今後の宇宙の軍事利用をめぐる方向性について、

多くの質問や活発な議論がなされ、大きな成果を得られた会となりました。



写真：「コロキウム 宇宙の軍事利用の潮流」（2021年12月・防衛大学校）

## 活動報告

### 「国際人道法に沿った歩哨ロボット用攻撃規制システムの開発」

執筆者

辻田 哲平

つじた てっぺい

機械工学科 准教授

2012年12月12日（日）、オンライン開催された戦略研究学会秋季講演会にて、機械工学科辻田准教授が「国際人道法に沿った歩哨ロボット用攻撃規制システムの開発」について講演をしました。これは平成30年度に採択されたグローバルセキュリティ・センター統合先端科学研究の成果です。最終的な行動決定は人によって行われる遠隔操縦型ロボットを対象とし、オペレータが適法なロボットの運用ができるよう

に法的アドバイスをするシステムの開発の経過について説明しました。コメンテーターや聴衆と活発な意見交換が行われました。本講演の内容は、同学会の機関誌『戦略研究』第30号（2022年3月下旬発行予定）にて公開される予定です。今後も戦略研究学会はじめ学外の各種の学会との研究協力や交流が活性化されることが期待されます。



## 「治安部門ガバナンスに関するアジア太平洋会合への参加」

執筆者

木場 紗綾

きば さや

公立小松大学国際文化交流学部准教授、防衛大学校グローバルセキュリティセンター共同研究員。神戸大学大学院国際協力研究科博士課程修了（政治学博士）。フィリピン大学第三世界研究センター客員研究員、在フィリピン日本国大使館専門調査員、在タイ日本国大使館専門調査員、衆議院議員秘書などを経て現職。技能公募予備自衛官（語学）。

2021年12月16-17日、ジュネーブのシンクタンク Geneva Centre for Security Sector Governance (DCAF) が、治安部門ガバナンスに関するアジア太平洋会合をオンラインで開催しました。防衛大学校グローバルセキュリティセンター (GS) は2019年より、日本におけるDCAFのパートナーシップ機関の役割を担っており、倉田秀也GSセンター長らが参加しました。

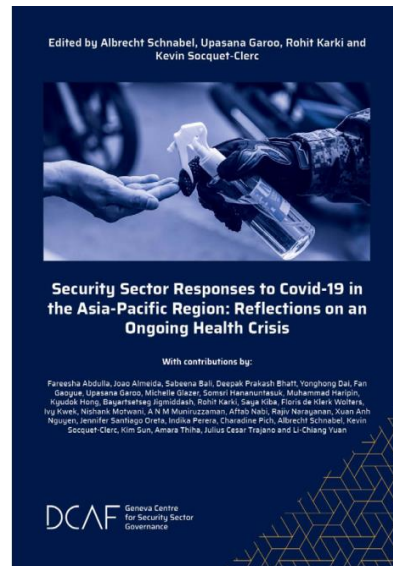
DCAFからは、2019年にGSを訪問したこともあるDCAFのアジア太平洋課長のシュナベル・アルブレヒト博士らがジュネーブの職員らが登壇しました。日本からは、防大の河野仁教授、防衛研究所の吉崎知典氏、叡啓大学の安富淳准教授、公立小松大学の木場紗綾准教授らが参加しました。その他、アジア太平洋地域で治安部門ガバナンスの研究・実践に携わる約60名が会合を視聴しました

会合1日目には、ミャンマーとアフガニスタンの事例をもとに、治安部門が深刻な機能不全や非民主主義的体制に陥ってしまった場合、国際社会はどのような支援を行うべきかというテーマでディスカッションが行われ、当事国の実務家を交えて、具体的な意見交換と提言が行われました。また、それを踏まえて各国が今後どのようにアジア太平洋地域の治安部門ガバナンスの改善に寄与できるかについても、活発な議論が行われました。日本からは、専門家による英語ウェビナーでの発信、防衛省・自衛隊の諸機関との連携、国内で治安部門ガバナンスの現状を広く知らせるための自国言語での出版活動などを提案しました。

2日目には、“Security Sector Responses to Covid-19 in the Asia-Pacific Region: Reflections on an Ongoing”と題す

る書籍の出版報告が行われました。同書は、日本を含むアジア太平洋地域の各国において、新型コロナウイルス感染症対応や防疫、国境管理などをめぐって、保健衛生部門と軍や警察といった治安部門がどのように協力、調整を行ってきたのか、欧米諸国と異なる点は何か、軍の民主的統制のための課題はどのようなものかを論じたもので、日本の研究者らも情報を提供しています。全文は、DCAFのウェブサイトから無料でダウンロードすることができます。

<https://www.dcaf.ch/security-sector-responses-covid-19-asia-pacific-region-reflections-ongoing-health-crisis>



写真：“Security Sector Responses to Covid-19 in the Asia-Pacific Region: Reflections on an Ongoing”



GS News Letter Vol.11 (March 31, 2022) 2022年3月1日発行  
 [発行人] 倉田秀也 (グローバルセキュリティセンター長)  
 [編集担当] グローバルセキュリティセンター企画・発信部門



防衛大学校先端学術推進機構グローバルセキュリティセンター 〒239-8686 横須賀市走水1-10-20  
 TEL : 046-841-3810 (内線 : 2141) E-mail: gs@nda.ac.jp URL: <http://www.nda.ac.jp/cc/gs/>

### 編集後記

コロナ禍の発生から早くも2年が経ちました。本センターも一時は活動が麻痺状態になりましたが、幸いこの1年間はオンラインと対面の併用でかなりの数の研究活動を行うことができました。とりわけDCAF、戦略研究会という学外の研究組織との緊密な研究協力ができたことは大きな成果でした。また、文理融合の特質を活かしながら、防衛省・自衛隊の実務部門や防衛研究所との協力関係も今後さらに強化していきたいと考えています。本年度に発足したクロスドメイン研究部門も活動を本格化させつつあります。次年度からセンター長以下、本センターの運営体制が刷新されますが、今後とも本センターへのご理解とご協力をお願いいたします (等松)